

2019年7月5日

DBJ アセットマネジメント株式会社  
代表取締役社長執行役員 佐藤 朗

## 2018年度 フィデューシャリー・デューティー/スチュワードシップ責任に係る取組状況について

当社は、当社最高の経営規範である「業務運営基本方針」等において、お客様に対するフィデューシャリー・デューティー及びスチュワードシップを全うすることを表明するとともに、その取組状況について公表することとしておりますが、2018年度におけるそれらの取組状況について、下記の通り公表いたします。

### 1. 利益相反管理に関する取組

- ・ 社内規程の整備や人員体制の見直し、各種情報遮断措置等を実施し、ファンド間取引等を含む利害関係者取引に対応する総合的な利益相反管理態勢を構築しました。
- ・ 当該措置については、独立した社外委員（弁護士）が参加するコンプライアンス委員会における審議を経て、取締役会において決議をしております。
- ・ なお、コンプライアンス委員会では、2018年度において審議対象となったすべての事案について問題がないことが検証されております。

### 2. 運用サービスの充実、高度化等に関する取組

- ・ 当社では、機関投資家であるお客様ご自身の説明責任に十分に配慮した運用サービスの提案及び提供を行うこと、そしてその前提として個々のお客様との間の密接な対話・コミュニケーションを行うことを基本的な姿勢としております。2018年度においても、そのような基本姿勢に基づき、お客様の運用ニーズに合致した投資機会の提案及び提供、運用の経過や実績に関する適時適切な報告・説明に努め、顧客サービスの充実に継続して取り組みました。
- ・ また、当社では、中長期的な投資資産の価値向上のため、投資判断等においてESG課題を適切に考慮することとしております（以下これを「ESGインテグレーション」と表現します。）。国内不動産投資分野においてはESGインテグレーションを従前から推進しており、サステナブル不動産の考え方を踏まえた投資運用活動を実践しております。2018年度においては、「GRESBリアルエステイト評価」に引き続き参加し、当社が運用する「合同会社ジャパンコアインベストメント（投資物件：

品川グランドセントラルタワー)」及び「DBJ プライベートリート投資法人」の2ファンドが最高位の「Green Star」を取得しております。

- PE・インフラ・海外不動産ファンド投資分野においても、2017年度より、投資判断等の場面において投資対象の非財務的なリスクや価値を積極的に評価することを明確にフロー化することを通じ、ESG インテグレーションを正式に開始しております。2018年度は、投資判断時におけるESGに係るGP等の態勢審査を徹底し、期中においても同様の観点からのモニタリングを実施して参りました。ESG取組態勢の評価方法に関しては、実績を積み上げつつ、実施のための社内規程類整備を検討して参ります。こうした取組により、投資対象ファンドの内部態勢の適切性や投資家に対する情報提供・説明姿勢といった定量化しにくい一方で投資価値の持続可能性に関し極めて重要となる部分について、適切に投資判断等に反映していくことを目指しております。

### 3. 従業員に関する取組

- 人事評価制度及び昇格制度について、従業員の成果と行動が公正に評価され、その結果が賞与、昇給及び昇格・配置に適切に反映されるよう、一部見直しを行い、2018年4月に改定・実施しました。今後も運用の状況に応じ必要な見直しを行いながら、フィデューシャリー・デューティーやスチュワードシップ責任の実践が人事評価と適切に結びつき、ひいてはそれら責務を重視する社内文化の醸成を促すものとして定着していくことを目指しております。
- コンプライアンス等業務上必要な知識の習得や更新に係る社内研修を随時実施することに加え、資格取得に関する補助制度も整備しており、従業員の意識及び知見の涵養を組織的に支援しています。

以 上